

令和5年度 墨田区立文花中学校(夜間学級) 経営報告書

校長名 稲垣 吉実

学 校 目 標	『チーム文花中としての教育を実践し、文武両道の精神のもと、社会に貢献できる生徒、生徒の自主性を伸ばす学校』を目指す。
目 指 す 学 校 像	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる」「楽しい」「できる」「定着する」が実感でき、自主的な学習意欲を育む学校 ・ICT機器や一人一台のタブレット端末を効果的に活用したICT教育を推進する学校 ・人権を尊重し、夜間学級との交流等、異文化理解を積極的に推進する学校 ・チーム文花中として学校・家庭・地域が一つになって共に歩む学校
目 指 す 子 供 像	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重し、思いやりをもって互いに協力し合い、自他を大切にす生徒 ・毎日の授業や家庭学習を大切にし、自ら考え、進んで学びに向かう生徒 ・規範意識を身に付け、責任を果たし、国際社会の一員として、社会に貢献できる生徒 ・文武両道の精神をもち、心身共に健康で何事にも粘り強く取り組む生徒
目 指 す 教 師 像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する教育的愛情と、教職に対する情熱と使命感をもっている教師 ・豊かな感性を持ち、明朗かつ健康で、人間的魅力にあふれている教師 ・高い「授業力」をもち、生徒に確かな学力を身に付けることができる教師 ・社会的良識と自ら学ぶ意欲をもち、組織人としての責任感、協調性を有する教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
各教科等指導等	個々の学力にあった授業の実施	3	3	○数学・理科におけるTT授業の実施、英語では少人数指導ができた。 ○クラス分けテストを年2回実施し、日本語指導、教科指導や補修等を効果的に行うことができた。次年度も継続していく。	B	B
	学習内容に応じて、一人一台端末を活用した授業を実施	3	3	○文部科学省による夜間学級・推進事業に応募・採用され、月2回一人一台端末活用の実技研修を実施し、個別最適化・協働的な学びを取り入れたICT教育を実践できた。 ○協働的な学びについてはさらに発展させる可能性があるため、次年度以降もさらなる活用に取り組む。	B	B
	スクールカウンセラーとの連携、特別な支援が必要な生徒に対する支援等	3	3	○毎月1回特別支援委員会を開催し、支援が必要な生徒情報の共有と対応の検討を実施した。 ○年2回の教育相談を実施し、通訳介助の協力を得ながらスクールカウンセラーとの連携を行った。 ○より効果的にスクールカウンセラーや通訳介助との連携を構築するため、特別支援委員会の日程に、その2名が参加できるよう調整について検討する。	B	B
	全教員による特別支援を理解した指導等	3	3	○特別支援委員会を中心に、支援が必要な生徒を対象とした、個別指導計画の作成を行った。夜間学級にあった支援方法の事例を整理し、次年度以降も継続する。	B	B

様式 4

キャリア教育のための進路説明会の実施等	3	3	○進路説明会を4月当初から行い、年3回実施した。今年度は全日制課程の受験生が多く、私立高校を受験する生徒もいたことから、指導についての情報共有を行い、より良い指導計画となるよう改善する。	B	B
高校と連携し、高校受験や就業について学ぶ教育活動を推進	3	3	○東京都夜間中学校の行事として、本校にて定時制高校10校の先生方を招聘し、進路について学ぶ会を実施した。 ○直接高校の先生から話を生徒が聞く機会を次年度計画するよう検討する。	B	B
授業力・生徒理解力・危機管理能力等、自らの資質・能力の向上等	3	3	○月2回の一人一台端末活用実技研修と、日本語教材の著者2名を招聘した日本語研修を年1回実施した。実施内容を整理し、次年度以降に本校に配属する教員にも引き継げるようにする。	B	B
学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの学力に合ったクラス構成になっており、大変素晴らしいと思います。 ・今年度、全日制、私立の高校への合格者が出た話を聞き、文花中夜間学級の生徒さん達のレベルの高さを改めて実感しました。 				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	生徒の心のケアの充実、養護教諭やSCとの連携	3	3	○9月と1月に教育相談機関を設定・実施し、生徒理解及び生徒指導の一層の充実を図った。 ○教育相談内で行われた面談記録を共有し、聞き取った内容の保存を行うことで、次年度以降に引き継ぐ体制を整える。	B	B
	いじめ、問題行動、不登校傾向の生徒への、早期対応・指導等	3	3	○毎月実施する生活指導部会、特別支援委員会にて情報交換を密にし、組織的に指導に取り組んだ。 ○生活指導部会内で生徒の情報交換方法を見直し、全体でより共有しやすい体制を整える。 ○教員の経験によって対処法に違いが出ないよう、複数人による指導の徹底、指導の校内OJTを推進する。	B	B
	セーフティ教室等を実施し生徒や家庭に対しての啓発等	3	3	○向島警察署の方を講師として招聘し、セーフティ教室を実施した。 ○日本語指導が必要な生徒にも、わかりやすい指導を校内にて共有し、指導の改善に取り組む。	B	B
	生活習慣の指導、品性のある生徒の育成等	3	3	○教員から挨拶することを心掛け、指導を全体で行った。 ○夜間学級は生活習慣についても学ぶ場であることを生徒に意識させるよう、育成について常に改善しながら全体で取り組む。	B	B
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・外国から来ている生徒も多いと思うので、日本での生活習慣や文化を指導することは大切だと思います。 ・夜、学校へ行った時は、生徒のみなさんからあいさつをしていただき、とても気持ちの良い学校だと思います。 				

様式 4

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	学校経営方針に基づいた教育活動の提案・実施等	3	3	○学級別会議、分掌部会、企画会議、職員会議の系統的・機能的な管理運営を行うことができた。 ○各主任による報告・連絡・相談の徹底を今後も務める。	B	B
	ICTを活用した授業研究等、生徒の意欲・関心を引き出し、新学習指導要領に向けた校内研修を計画・実践等	3	3	○一人一台端末実技研修で学んだことを、他の教員と良かった点や反省点などを共有することで、さらなる活用を模索し、研修がより実りあるものとする。 ○これまでは働きながら学ぶ生徒に向けた定時制高校進学を想定した目標設定を行ってきたが、全日制希望者に応じた日本語力(学習言語)増進についても進めていく。	B	B
	「環境が人をつくる。環境は人がつくる。」という認識の下、物的環境、人的環境づくり	3	3	○学校施設・設備点検を教職員全員で行い、環境改善に対する教職員の意識高樹夫に努めた。 ○1, 2, 3階の教室移動が非常階段となっているため、雨天で滑る危険性や、夜間の視認性の悪さなどについて施設係に伝え、環境改善への働きかけを継続する。	B	B
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・文花中の学習する環境はとても良いと思います。さらなる良い環境を目指してほしいです。 ・生徒のみなさんの授業を拝見いたしました。みなさん、とても真剣な目でした。意欲が伝わりました。 ・改善策を元に引き続き取り組んで頂きたいと思います。 				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	学校の教育活動を保護者・地域に広く公開し、協力を得る	3	3	○学校ホームページの充実に努めた。 ○年3回、保護者・地域等への夜間学級公開を実施し、100名を超える来校者があった。 ○学校運営連絡協議会にて連携を深め、今後も夜間学級の取り組みの情報発信に努める。	B	B
	昼間の生徒との交流、地域の方々との交流を通して、異文化理解教育の充実に図り、国際理解教育の推進を図る	3	3	○中間部の1・2年生との交流をそれぞれ実施した。 ○交流の計画時に中間部の担当教員とのすり合わせを今後も継続し、より有意義な交流ができるよう努める。	B	B
	家庭・地域との連携を図り、信頼関係を深め、協働歩調で生徒を指導する学校を目指す	3	3	○地域の協力により「ゆかた着付け体験」「伝統音楽鑑賞教室」を実施した。 ○太鼓部にて部活動指導員による日本文化・伝統に対する理解の推進に取り組んだ。今後も計画的に実施するため、地域の方との連携を深めていく。	B	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間中学の存在をもっと広くアピールできれば良いと思います。 ・昼間部や他校の夜間学級との交流が更に増えると良いと思います。「ゆかた着付け体験」など、日本文化に触れられ良い機会になると思います。 				

様式 4

2 令和5年度学校評価のまとめ

年度途中で新型コロナウイルスによる制限が解除され、学校生活はコロナ禍前の行事を再開させることができるなど、生徒が安心して学習活動に取り組むことができる状況となった。

今年度は文部科学省による夜間学級の充実事業に採用されたことで、特に一人一台端末を夜間学級で活用する方法の研究・実践に特に力を入れ、授業における個別最適化・協働的な学びの実践に取り組んだ。取り組んだ成果を東京都夜間中学校研究大会、全国夜間中学校研究大会にて報告することで、全国への情報発信を行うこともできた。この一人一台端末をこれまで以上に活用する取組により、生徒は積極的に端末を活用した学習に取り組む姿勢が増え、その結果、卒業生は例年と異なり全日制の都立・私立高校に合格する生徒も出るなど、学力の向上が見られた。

生活面では、全国の夜間学級としてはまだ配置が少ないスクールカウンセラー（SC）が本校には所属していることから、特別支援委員会などを通して SC、通訳介助、教員との連携を行い、生徒の心のケアなどに取り組むことができた。

また、地域から応援されていることが関係者評価からもわかり、より地域の協力を得ながら、そして昼間の生徒との交流も増やししながら、次年度以降も行事について検討しながら有意義な活動を増やしていきたい。

夜間学級は現在、海外にルーツのある生徒や昼間の中学校にて不登校だった生徒の受け入れが多く、特に教員による日本語指導は大きな課題となっている。そのため、今年度の学校評価を次年度に活かすと共に、教職員の日本語指導力をさらに向上させる組織的取組を行うことで、夜間学級のさらなる向上と発展を目指したい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立文花中学校 校長 稲垣吉実